

日本の産業は 19 世紀後半と第二次世界大戦後に急速に発展した。そして、日本はイノベーションのリーダーとして産業先進国に名を連ね、“Made in Japan”は世界的に高品質と信頼性を意味するものとなった。上武絹の道は、日本の産業化の過程で起こった変化の例であり、現代のメガポリス、東京や千年の歴史を持つ京都でも見られないユニークな歴史を持っている。

上武地域のシルク産業はかつてほど権威的ではないが、現在でも日本のシルク生産の中心地となっている。今日では、観光客は古代の伝統の継続を経験するだけでなく、高品質の絹製品を購入するようになった。コラーゲンを含む絹の天然タンパク質は優れた美容上の利点を有することが発見されており、この地域は現在、贅沢なシルク石鹼の主要メーカーとなっている。また、この地域のいくつかのバイオテクノロジー企業はワクチンや診断薬などの医療目的でカイコを研究している。最近では、この地で世界初の遺伝子組換えカイコが生産された。良質な絹を追求し、超ソフトな絹を作る一方で、もうすぐ市場に出回るであろう蛍光シルクを生産していたりもする。

今では世界の絹貿易を支配していないが、上武地域は絹産業の発展にとって世界的に重要な場所であり続けている。日本のシルクの歴史は外国文化との交流の歴史にとどまらず、国内産業の歴史であり、日本の技術の進化の歴史である。そしてその歴史は今日も続いている。